

当院での在宅血液透析(HHD)におけるトラブル分析と課題

医療法人衆和会 長崎腎クリニック 長崎腎病院

○丸田祥平、林田征俊、田中 健、矢野利幸、高木伴幸、澤瀬健次、橋口純一郎、原田孝司、船越 哲

【背景】

当院では、2014年より在宅血液透析(home hemodialysis:以下 HHD)普及に向けての活動を実施し、HHD 施行患者数は2018年4月時点で14名に達したが、いくつかのトラブル事例を経験した。トラブルを分析し、HHD におけるリスクを明らかにすることも、HHD 普及への1つの鍵であると考えている。今回、経験したトラブルの評価を実施したので報告する。

【目的】

当院における在宅血液透析中のトラブル事例を分析する。

【方法】

2008年から現在までのHHDにおけるトラブル事例をretrospectiveに評価し、患者アンケート調査のHHDを断念する理由とともに分析した。

【結果】

HHD実施件数5026件中、治療継続が困難であった事例は246件4.9%で、内訳は、自己穿刺トラブルは56件1.1%、機械的トラブルは29件0.6%、血液回路系トラブルは44件0.9%であった。患者アンケート調査では有効回答219件中、血液透析の技術的不安は自己穿刺152件69.4%、機械操作89件40.6%、異常時の対応96件43.8%であり、実際のトラブル件数とは大きな乖離があった。また、HHDを断念せざるを得ないとの回答は56件25.6%で、内訳は自宅設備・経済的問題が11件19.6%、介助者不在が28件50.0%であった。

【考察】

今回、当院透析患者のアンケート調査において、HHD導入を躊躇する理由としては、一般的にHHDの障壁と考えられている部分と同様に、血液透析の技術的要素が大きく関与していたが、実際のトラブル発生率は低く、HHDは患者指導と病院側のサポートにより十二分にカバーできる安全かつもっとも望ましい医療の姿であり、これらの情報を患者・スタッフに周知していく必要があると思われた。